

令和四年三重県支部紙上賀詞交歓会句会の成績

令和四年二月

朝妻 力選

特選 土器の盛塩尖る漁始

西尾 敬一

奉納の今年最後の炭を焼く

宇田多香子

入選 寒造樽に柱に護符貼らる

山本 孝子

玻璃越しに富士を仰げる年酒かな

芦田 昌男

箸紙へ二人暮らしのふたりの名

佐々木経子

仕舞湯にあれども初湯溢れしむ

赤塚 靖子

訊ぬれば訛やさしき雪の駅

山本 孝子

稜線の近きを祝ぎて御慶かな

稲垣いつを

長き夜を眠れぬ母に子守歌

岩田 光代

その中の一つを冬至南瓜とす

伊藤 正子

追伸のこまごま妻の年賀状

宮田 正和

飾焚く炎の映る禰宜の杵

坂口 緑志

潮仏打つ波音の淑気かな

武田 巨子

翁舞ふ莫塵一枚の淑気かな

山口 八重

福引の白が気の毒さうに出る

池田 綏静

布子着て陣取り遊びきりもなく

池田 綏静

一村に雪は過不足なく積もる

松上 孝

坂口 緑志特選

藁苞の女結びや寒牡丹

平野 淑子

宮田 正和特選

人間をふはとかはしぬ雪螢

橋本 石火

西田 誠特選

注連飾る火気の香残る登り窯

土井 陽代

平田 冬か特選

オリオンや藁厚く敷き仔牛待つ

古川 和子

橋本 石火特選

英虞湾を跨げる橋や初霞

坂本富貴子

宇田 多香子特選

まう搗かぬ白に蓋して注連飾る

伊藤美枝子

前田 照子特選

元日や常の薬を飲み忘れ

横山 昌子

三ツ矢龍美特選

枯野来て眉間の皺の一つ増ゆ

福田 優子

武田 巨子特選

注連飾る火気の香残る登り窯

土井 陽代

金津やよい特選

アルプスの風研ぎ澄ます軒氷柱

佃 実

高点賞

4点句 二日はや腰に縄巻く山の衆

浜地 和恵

3点句 箸紙へ二人暮らしのふたりの名

佐々木経子

百歳を一つ引き寄せ大旦

中山 暁代

初旅の鑑真廟に聞く鳥語

西田 尚子

鉤引唄早稲も晩稲も豊かにと

宮田 正和

盛り上がる炉話に榭崩れけり

手塚 泰子

藁苞の女結びや寒牡丹

平野 淑子

茹で上る蟹に雪来る能登の市

山口 一世

注連飾る火気の香残る登り窯

土井 陽代